

基盤整備事業と連携した担い手への農地集積と低コスト生産 や耕畜連携の取組を推進(久慈市宇部川、野田村新山・北区)

基盤
整備の
活用

法人化

機構
の活用

地域の概要

- ・ 東日本大震災津波により農地が被災、農業用施設や機械等も甚大な被害
- ・ 平成24年度から津波被災農地約15haを含む受益農地80haの大区画化整備を実施し、平成27年度から順次整備した農地で営農を再開



久慈市
野田村

取組の成果

- 設立した法人等に基盤整備した農地を集積し営農再開
担い手への農地集積率:[取組前(H24)] 3% ⇒ [取組後(H29.3)] 80%
- 水稻直播栽培等の低コスト化技術導入
- 地域の畜産農家に稲WCSや粳米サイレージを供給するなど耕畜連携の取組を促進

<マスタープラン基礎データ>
作成済地域数
久慈市 8地区
野田村 6地区
(14地区すべてでH28見直し)

取組のポイント

基盤整備事業の導入、法人設立

- ・ 基盤整備を契機に地域の担い手6名で法人(農事組合法人宇部川ファーム)を設立
- ・ 法人設立に当たっては、市村、県関係公所がサポートし、法人形態、経営規模や設立事務についても話し合い等を開催



【法人設立総会の様子】

農地中間管理事業の活用による営農体制強化

- ・ 農地中間管理事業により法人等に基盤整備した農地の8割を集積・集約
- ・ 法人の営農体制の強化を図るため、地域集積協力金(H27:11,130千円)を活用し、ライスセンターを整備



【整備したライスセンター】

省力化技術の実践、耕畜連携の推進

- ・ 水稻直播、グランドカバープランツ等の低コスト・省力化技術の実践
- ・ 地域の畜産農家に稲WCSや粳米サイレージを生産・供給
- ・ 地域で初の取組となる粳米サイレージについては、牛への給与試験・嗜好性評価の実施、試験機関での成分分析等により品質を確保



【粳米サイレージ】



【給与状況】